News 学生の活動 1

企業インターンシップ―国際機関特集―

外に出て学ぼう

先進理工学専攻3年（LD3）　川井 拓真

◀コーヒーブレイクも大切な交流の場

2015年8月末から11月末までの3ヶ月間、ウィーンのVienna International Centreにある国際連合（UN）の国際原子力機関（IAEA）にて、インターンシップを実施しました。IAEAはアメリカ合衆国第34代大統領Eisenhowerの「平和のための核」（Atoms for Peace）をスローガンとして掲げており、多岐にわたる分野の核・原子力技術の部署が存在します。軍事使用目的に関する規制だけでなく、世界中の人々が平和・健康・豊かな暮らしをするための技術の発展、原子力発電関連の技術の発展および管理などが挙げられます。昔の論文に記載されている実験データを広く利用してもらうためにEXFORと呼ばれる核物理データベースに登録する業務を初めとして、将来就職する際の糧になるだろうという思いのもと、様々な業務や運営に参加させていただきました。

仕事では基本的に英語を使いますが、どの部署も多国籍な人材で構成され、食堂などフリースペースでは一体いくつの言語が同時に聞こえるか分からない、という環境でした。その環境はとても刺激的で、休憩中の雑談でも感じる・考えさせられる・学ぶことが絶えずあり、なんて面白い職場だろう、そう素直に感じました。日本の学生の中には「自分は英語ができない。海外に行くのが不安」と考える人も多いと思います。しかし、IAEAのような機関では英語を母国語としている人の方が少なく、誰一人としてそんなことをためらったりはしていませんでした。日本人職員の方も「細かいことを気にせず若い人にどんどんチャレンジする心をもって応募してほしい。国連予算分担率2位の日本人がこの機関で働くことが如何に大切か。」と語ってくださり、今の僕たちの世代に足りないのは、そのチャレンジする心なのだと深く考えさせられました。安全で多くの人が推奨する道ばかりを選び、一人でも踏み出してみることを恐れていたらもったいない。少しでも興味をもったらチャレンジすることが、人として成長する上で何よりも大切であること、そして仕事ばかりでなくその国・土地特有の文化をじっくりと味わうことが、自分の価値観をより豊かにすることを、このインターンシップというカリキュラムを通じて後輩たちにも知ってほしい。せっかくの機会、楽しんだもん勝ち！

▶ドナウ川を見下ろせるヴァッハウ渓谷のケーリンガー城跡にて

英語はできない。だがまだ生きている。

先進理工学専攻3年（LD3）　喜久里 浩之

◀職場の英国人主催のFish and Chips Party

2015年9月から3ヶ月間、フランス・パリにある国際機関、経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）にて海外インターンシップを行いました。NEAは日本を含む31の加盟国で構成されるOECDの専門機関であり、その活動は原子力の安全・規制、放射性廃棄物、原子力科学、核燃料サイクル、損害賠償責任、広報活動など多岐に渡ります。

今回のインターンシップでは主に炉物理実験データベースの構築に携わりました。国際機関なので言語は英語。ここで2つの問題が生じます。1つは自分の専門（電力システム）が原子力科学ではなく、その知識が乏しいこと。この点は担当業務を決める際に考慮していただいたのですが、やはり扱うデータが原子力科学に関するものなのでそれなりの専門知識に触れることになり多数の疑問が生じます。これらの疑問を担当職員に質問することになるのですが、ここで英語でのコミュニケーションという2つ目の問題が生じます。事前にできる限りの準備はしましたが、依然として英語弱者である私が、日本語でも初めての内容を英語で質問します。弱者は弱者なりの戦い方をということで、限りある語彙を組合せ、ありとあらゆるボディランゲージを駆使し、相手の言葉を五感で感じ取り、使えるものは即拝借する…。すると一対一のコミュニケーションに限っては案外何とかなることが分かりました。

国際機関でさえも全員が英語のネイティブではありませんし、世界を見ればその割合はより少ないはずです。今回のケースでは英語ができるに越したことはないのですが、自分が普段使っている言語でのコミュニケーションが通用しない場合、相手との意思疎通・交流を図るためには、スキルよりも熱意や考え方を変えるほうが重要なのかもしれません。

▶職場の日本人職員チームでEKIDEN DE PARISに参加